生徒と紡ぐ

情熱教師File

no.19

今月の表紙

島根県立松江南高校

吉村竜成（りゅうせい）先生

全力でわくわく

現任校に着任して２年目の2019年度、吉村竜成先生は初めて学級担任を受け持った。学校行事や部活動の中心となりながら、進路に思い悩むことも増える２年生。学級づくりで大切にしてきたのは、生徒一人ひとりとの関係をしっかり築くことだ。「生徒個人と担任との信頼関係があり、それが生徒の数だけ重なることで、よい学級ができると思うのです」と吉村先生。成長する生徒の姿を思い描き、自分なりに支援しようと働きかけてきた。

高校生活を授業と部活動だけに終わらせず、学校の外に出て視野を広げてほしい――。多様な人との出会いや様々な経験を重ねることを願い、生徒が参加できる社会的な活動を探したり、企業や自治体に依頼して社会人の話を聞けるようにしたりと、生徒の志望に応じて機会を提供し続けた。「希望進路は、１つに決まらずに悩んでもよいから、まずは選択肢を持っていることが大切だよ」と、生徒に語りかける。

担当教科の数学でも、大切にするのは社会とのつながりだ。定理や公式、記号が生まれた社会的背景を説明したり、学習内容が実社会で活用されることを実感できる出題にしたりと、受験のためだけの学びとならないようにする。前任校から授業に知識構成型ジグソー法（＊１）を取り入れたのも、「数学の知識だけではなく、周りと力を合わせて問題を解決する力を育みたいから」と、その思いを語る。

この１年、どのようなことが起きても、生徒を頭ごなしに否定しなかった。「吉村クラスは居心地がよいクラス！」と生徒は口をそろえる。吉村先生も、「自分を出しても大丈夫と、クラスが安心できる場になったのかもしれません。主体的に動く生徒が増えてきたと感じています」と、生徒の変化を喜ぶ。そして、「先生が友人のように感じることもある」と言われるほど、生徒との距離は近くなった。副担任の時とは比較にならないほど、友人関係や進路のことを相談されるようになり、中には誰にも言えなかった悩みを打ち明けた生徒もいた。「担任の醍醐味を感じるのと同時に、責任の重さも身に染みた。生徒たちの思いに応えていきたい」と、決意を新たにする。

４月からは３学年の担任となることに「わくわくしています」と吉村先生。学級担任として初めて送り出すことになる生徒たちが笑顔で春を迎えられるよう、全力投球の１年がまた始まる。

Profile

吉村竜成先生　教職歴10年。同校に赴任して２年目。２学年担任。進路指導部。野球部顧問。

島根県立松江南高校　全日制／普通科・理数科／共学／１学年 約280人／2019年度入試合格実績（現浪計）国公立大は、大阪大、神戸大、鳥取大、島根大、九州大などに163人が合格。私立大は、上智大、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ297人が合格。

＊プロフィールは2020年３月時点のものです。　＊１　ジグソーパズルを解くように、協力して全体像を浮かび上がらせる協調学習法の１つ。